

1 行動・現象から気づく

気になるなあ！！

Q 9

3日以上、同じ状態が続いている

遊具の使い方やルールのある遊びで、頻繁に友だちとトラブルになり、かんしゃくをおこすのは？

2 仮説を立てる

困っているんじゃないかな？

子どもの  
気持ちに共感

原因はこれかな？（背景を推測する）

何かに困っている子どもの行動には、必ず、その背景となる要因があります。同じように「泣きわめいている」「怒っている」「喧嘩をしている」「あばれている」状態であっても、実は、その原因は、異なるいくつかの原因から生じていることがあります。「〇〇かもしれない」という視点で想像してみましょう。

- 言語コミュニケーションがうまくとれないのでは？
  - ・言葉の発達が遅く、「貸して」「入れて」「自分もやりたい」等、相手に気持ちがうまく伝えられないのかもしれない。
- ルール理解に困難さがあるのでは？
  - ・順番があることや、そのためには、どうしたらよいのかわからないのかもしれない。
  - ・一度は理解できても、すぐに忘れてしまうのかもしれない。
- ソーシャルスキルが身につけていないのでは？
  - ・経験不足から、遊び方や物の借り方がわからないのかもしれない。
- 対人関係に課題があるのでは？
  - ・自分ひとりで遊ぶことを好み、他者の介入が苦痛なのかもしれない。
  - ・物を介して、人とのかわりを持つことが苦手なのかもしれない。
  - ・自分の好きなこと、やりたいことをずっと続けていて、周囲の友だちのことまで理解できないのかもしれない。
- 運動能力、調整力に課題があるのでは？
  - ・思うように動きをコントロールすることが難しいのかもしれない。
- 感情のコントロールがうまくできないのでは？
  - ・衝動性、フラッシュバック、自分のやり方を変更させられることによる強い不安やこだわりがあるのかもしれない。

### 3 手だてを考える

こんなことができそうだな！！

手だては、1つじゃないよ！！



#### ○言葉の発達を促します。

まず大人と子どもの信頼関係を深め、「話したい」という気持ちを育てます。言葉では伝えきれない思いを、大人が子どもの間に入り、気持ちを代弁します。無理に質問をするのではなく、「～しよう」と言葉をかけ、行動を促すと良いでしょう。また、一緒に遊びながら、大人が手本となり、場面に応じた言葉を意識的に使うようにすることも大切です。

#### ○ルールを理解を促します。

簡単・明確な遊びから始めることで、ルールを理解させ、自信を持たせます。ひとつ達成できたら、次のルールを加える等、スモールステップで進めます。言葉だけでは理解が難しいようであれば、写真や絵などの視覚的手がかりを加えると良いでしょう。

例：歌を歌う、数を数える、小道具（たすき・帽子）などを渡し合う等、待つことや交代することを、明確にする。

#### ○友だちとのかかわりをつないでいきます。

人と関わってあそぶことの楽しさを、より多く体験できる機会を設けます。その際、友だちとの間で、事前にルールの確認しておきます。忘れてしまうこともあるので、言葉以外の写真やマーク等を工夫して、いつでも、誰でも確認できるようにしておきます。

思いが伝わらず、友だちとトラブルになりそうな時には、子どもたちとの間に入り、「〇〇したかったね」と代弁し、関係をつなぐようにします。トラブルにならずにすんだ時には、大いに褒めます。そのためには、子どもと共に活動し、経過をしっかりと見守ることが大切です。

また、他の機会に、友だちとのトラブルの様子を人形（ぬいぐるみ）等を使って、ロールプレイ（ごっこあそび）で再現してみたり、自分は、どのようにされたら嫌なのか、そんな時には、「他にこんな方法があるよ」と代替の事柄を提案したりすることも大切です。

### 4 振り返り・評価をする

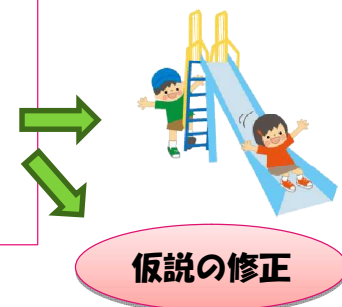
★ 家族もよろこんでいる

笑顔がたくさん、見られるようになったかな？

支援は、有効だったかな？

記録を読み返し、振り返りをしよう。

園内の遊具や道具の写真をラミネートで加工し、本児が持ち歩けるようにしたり、遊具の近くには、「仲良くするためのお約束」をイラスト入りで貼っておくようにしたりしたところ、友だちとのトラブルが徐々に減ってきました。すると、お迎えにくるお母さんにも笑顔が戻ってきました。



相手の存在がわかり、友だちとかかわることが楽しくなるためには、まずは、大人との関係が深まっていくことが大切です。

『いっしょに』をキーワードとした子どもとのかかわりを、身近な大人が意図的に心がけて、子ども達の環境を整えていきましょう。

そのうえで、だんだん「〇〇ちゃんと一緒に遊びたい」と友だちの存在に気づき、自己主張を我慢したり、相手の気持ちを聞こうとしたりすることができるようになり、トラブルの軽減にもつながっていきます。

また、「〇〇しちゃダメ」というよりも、環境を整えて、望ましい行動を大人と一緒にやり、置き換えていくようにしましょう。

「できない」「困った」ことばかりを気にするのではなく、その子どもの良さ、得意分野を活かしながら、支援を探り、楽しいかかわりを作っていきましょう。

## Q10

### 赤い三輪車等、特定の遊具や、好きな遊びに固執するのは？

困っている子どもを理解しよう  
この三輪車、大好き！！  
でも、他のおもちゃは、どうやって遊ぶのか、よくわからない…。まるで自分の三輪車のように、長い時間あきることなく遊んでいる子どもがいます。

子どもの  
気持ちに共感

#### 障害の特性からその背景を考え、適切な支援をするために仮説を立てよう。

- 安心して楽しみたい。新しいことや、わからないことに対する不安がとても強い。  
今まで遊んだことのないものは、どうやって遊んだらいいのかわからないのかも？
- 大好きなもので楽しく遊べる時間。  
他の遊びに無理に誘っても、本人にとっては嫌なことなのかも？



#### 「環境整備」として

- 自分の好きな遊びができる時間を保障します。それに加えて、他の遊びにも少しずつ誘ってみます。時間がわかるような工夫も必要です。
- おもちゃや遊具の写真や絵を用意します。視覚的な手がかりがあると、他の遊びに誘うときにも、「これで遊ぼうか」「これで遊びたい」とお互いに伝え合うことができます。



#### 「個別の支援」として

- 好きな遊びはそれぞれです。子どもの興味や思いを大切にしてい、無理に誘うことはせず、まずは遊び場を共有することや、遊びを見ていることなどの、部分的な参加も認めるようにしましょう。
- 固執するあまり、おもちゃや遊具が友だちに譲れない、好きな遊びをなかなか終わりにできないなどの場合には、遊び始めるときに、「〇回でおしまい」「これをしたら終わり」と伝えておくようにします。終わりにすることができたらほめます。

#### 保護者と一緒に

- 大人が遊び方の手本を見せて、教えたり、遊びに誘ったりしましょう。
- 好きな遊びをとおして、大人や友だちと関わったり、遊び方を少しずつアレンジしたりして、興味が徐々に広がるようにします。

## Q 11

### 姿勢がくずれたり、身体の動きがぎこちなかったりするの？

困っている子どもを理解しよう  
じっとしていることって、むずかしいよ。  
つい、動いちゃうんだ。  
上手に走ったり、リズムよくスキップしたりするって、むずかしいな。

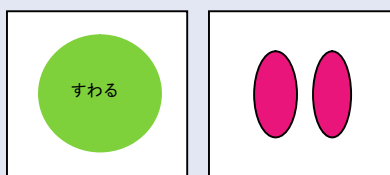
子どもの  
気持ちに共感

**障害の特性からその背景を考え、適切な支援をするために仮説を立てよう。**

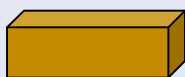
- 正しい姿勢のとり方がわからない、意識して保つことが難しい。
- 体力がなかったり筋力がなかったりして、正しく立つ、座る姿勢を保つことが難しい。
- 全身を使う、バランスをとる、手足の協調運動が苦手。

#### 「環境整備」として

○床に印をつけて、立つ位置、座る位置をわかりやすくしましょう。（足型、カラーテープ・シールなど。）



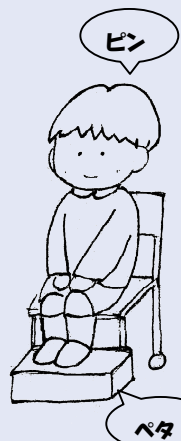
○いすや机は、体に合った大きさ・高さにしましょう。  
クッションや足台を使うと姿勢が安定しやすくなります。



#### 「個別の支援」として

○正しい姿勢を、具体的に教えましょう。

足の裏を床にしっかりとつけ、おしりがいすの奥にくっつくように座ります。  
背中を伸ばして、手はひざの上に置きます。



○はじめは短い時間から取り組み、少しずつ長くできるようにしましょう。

できたことをほめて伝え、その後には、リラックスできる時間をとるようにするとよいです。

#### 保護者と一緒に

○幼児期には、体を動かし、いろいろな動きを経験することが大切です。  
遊びの中に運動を取り入れて、楽しんでできるようにしていきましょう。

ブランコやトラップリン、バランスボール。  
なわとびやキャッチボール。  
いろいろなことにチャレンジ！！

1 行動・現象から気づく

3日以上、同じ状態が続いているよ

気になるなあ！！

Q12

人や物によくぶつかったり、平らな所でも転んだりするのは？

2 仮説を立てる

困っているんじゃないかな？

原因はこれかな？（背景を推測する）

子どもの  
気持ちに共感

<困っていること>

急いで教室から出ようとする、友だちやドアにぶつかってゴチン！  
「ごめん」「うう～ん」やっと友だちと仲直りしたら、園庭から泣き声。今度は転んでしまったのです。こんな毎日では、本人も痛いし、友だちとの仲にも影響します。  
保護者も心配が募ってきます。



<背景を推測しました>

幼児は身体の割合からすると頭が大きくてよく転びます。また、視覚や視野、眼球運動などの目の問題・聴力、大きめの靴などが背景になる場合もあります。でも、Aちゃんの場合は、身体バランスや、視力等の問題はありませんでした。

Aちゃんの日常をよく観察すると、ドッジボールは大好きだけど、ドリブルは苦手、大縄は参加するけれど、あやとりは逃げてしまいます。相手の動きに合わせるダンスは嫌いなようです。ひとつのことに根気が続かなかったり、あまり考えずについしてしまったりして、後悔しています。理解していたはずが忘れ物も多いようです。

そこで・・・こんな仮説を立ててみました。

「不注意と、身体的な協調運動の未発達があるかも」

### 3 手だてを考える

こんなことができそうだな！！

手だては、1つじゃないよ！！

#### <まずは、リスクを減らします。>

- ① 安全第一の環境整備です。園内や園庭に余計なものを置かない、置く場合にも角に丸みを持たせたり、やわらかな素材を使ったりするようにしました。危ないと思ったことはすぐ先生方同士で報告し合う約束です。
- ② つからない工夫をします。Aちゃんだけでなく、大勢で集まるときや出ていくときは、時間をずらす、友だちとの間をあける、予め動線を考えて指示を出すなどに配慮します。
- ③ 行動する前に「一言」の注意。気を付けることを短く具体的に言葉かけしてから動くようにします。子どもたちにも「一呼吸」を呼びかけます。

#### <プラスを増やします。>

- ① 人の動きに合わせた動き方、物に合わせた体のコントロールは、体を動かす場面を増やすこと、できたと思える学習にすることを目指しました。グループに分かれたり1対1になったりと、個々に合わせた練習の場をできるだけ設けました。
- ③ 仲良し言葉を増やします。「ごめんね」「だいじょうぶ」「よかったよ」「ありがとう」

### 4 振り返り・評価をする

笑顔がたくさん、見られるようになったかな？

支援は、有効だったかな？

家族もよろこんでいるよ。

記録を読み返し、振り返りをしよう。

Aちゃんは、前よりも、先生の言う事を聞いてから動き出そうとするようになりました。周りの子どもも、互いの動きを見ています。「一呼吸してから」Aちゃんの弦きに、そばのお友だちがニコ！遠くで先生も気づいてOKサイン。みんなが仲良くなったこともうれしい結果です。



### まとめ

「わが子のけがも心配ですが、お友だちに迷惑をかけないかと不安でした。」「家に遊びにくる子どもたちのやわらかい接し方を見て、私自身学ぶことが多いです。安心できました。」と、保護者の笑顔が増えました。家庭では、ゆっくり話を聞くようにし、できるだけ親子で公園へ行って、遊具にふれあい、ボールの投げ合いなどを楽しむつもりだそうです。今後、楽しんで体を動かす学習をもっと工夫しようと、園で話し合いました。

1 行動・現象から気づく

困っています！！

しょっちゅう繰り返して・・・

Q13

制作途中で突然あばれたり、活動をやめてしまったりするのは？

2 仮説を立てる

周囲に暴力を振るう、かんしゃくを起こして泣き叫ぶ、物を蹴ったり投げたりするなど、繰り返されるととても困りますね。  
でも、子どもは、もっと困っているかも？

子どもの  
気持ちに共感

原因はこれかな？（背景を推測する）

例えば、こんなことであばれてしまうのかも…。

- コミュニケーションが苦手で、自分の気持ちがうまく表現できないため、自分の思いを叩いたり蹴ったりすることで表現してしまう。
- 周囲の子どもの声や教室の空調の音をうるさく感じ、我慢の限界を超えてパニックを起こしてしまう。
- 手先が不器用なため作品がうまく作れないで、どうしたらよいかわからずに追い込まれた気持ちになり、かんしゃくを起こしてしまう。
- 先生の指示が理解できないまま制作活動に入ってしまったため、何をしたいかわからず焦ってしまい、パニックを起こしてしまう。
- 活動が楽しいと感じられず、友達のやっていることや別のことに手を出すため、他の子とトラブルになってしまう。
- いつも自分ばかり怒られるという思いが強く、他の子に当たってしまう。
- 普通にしていると先生が自分を見てくれないから、先生の気を引きたくてあばれる。

途中で活動をやめてしまう場合も、理由があるからでしょう。

- 廊下や校庭の様子が気になって仕方ない。
- 頭の中で空想していると楽しくて作業を忘れてしまう。
- 一つのことが終わると、次に何をしたらいいかわからない。
- 先生の指示が理解できず、活動を始めようとしたものの何をしたいかわからない。
- 先生の指示をすぐ忘れてしまって、何をしたいかわからない。
- 周囲の子どもたちの様子に気を取られてしまう。
- 教室の掲示物のことが気になって仕方ない。

背景に家庭の影響があるかもしれません。虐待を受けている子どもが、暴力をふるう場合もあります。早急に結論を出さず、慎重に見極めましょう。



こんなことができそうだな！！

手だては、1つじゃないよ！！

#### あばれているときは迅速な対応を！

- その場から放し、落ち着くまで待つ。教室の様子が視野に入らないところがよい。必ず先生一人が見守り、安全面の配慮を行う。できれば、別の部屋を用意する。
- 落ち着いたところで、何をしたかったのか聞いてみる。言葉によるコミュニケーションが不十分でない場合は、言い方を教える。また、困ったときに先生に知らせることも教える。

※あばれている子を押しさえたり、諭したりしても逆効果です。まずは、落ち着くのを待ちましょう。また、抱きしめることで落ち着く場合もありますが、発達障害のある場合は、かえってあばれる場合が少なくありません。

#### あばれないようにするために！活動をやめてしまう場合も！

- 子どもをよく観察し、どんな時にパニックを起こすか理由を探る。
- 子どもの困っていることに応じた工夫や支援をする。

【コミュニケーションが苦手】

- ・いやな時、してほしい時の言い方などを、具体的に教えていく。

【周囲のことが気になる】

- ・席の配置や周囲に置く物などをその子どもに合わせて工夫する。
- ・そのとき必要ない用具は、戸棚にしまったり、カーテンをかけたりして目に入らないようにする。

【周囲の音がうるさい】

- ・静かな別室で作業することも可とする。
- ・音を遮断するヘッドホン等を使ってみる。

【上手に作れない】

- ・苦手な作業は先生が手伝う。

【何をしたらいいのかわからない】

- ・全体に指示した後、その子どもにわかるように個別に指示をする。
- ・やることを絵で見せたり、やって見せたりする。

【つまらない、すぐ飽きちゃう】

- ・活動の時間を短くし、休憩を入れて続きの活動をするようにする。

【先生の気を引きたい】

- ・普通にしているときに声かけを多くする。

- その子どもの落ち着く方法を探り、あばれそうなときに試してみる。

- ・落ち着くためのスペースを用意しておく。
- ・好きなタオルなど、触ったり見たりすると落ち着くものを用意しておく。
- ・教室を歩き回るとか、これをするとうち落ち着くという行動を把握しておく。

#### 心が落ち着くための背景づくりを！

いつも先生に注意されていては、子どもの心は安定しません。普段から、子どもに先生の愛情が感じられるように、子どものよいところを見つけたり、できそうなことを課題にして成果をほめたりすることを多くしていきましょう。

また、家庭と協力して、家庭と園での生活がよいリズムになるようにしていくことも必要です。

勿論、虐待が疑われる場合は、迅速な対応が不可欠です。

## 4 振り返り・評価をする

★ 家族もよろこんでいるよ。

笑顔がたくさん、見られるようになったかな

支援は、有効だったかな？

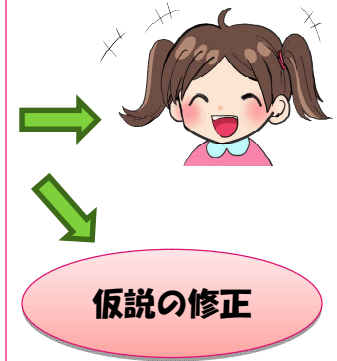
記録を読み返し、振り返りをしよう。

これまであばれていたような場面で、あばれなくなってきたら大成功です。  
成果が見られない場合は、

- ① 他の方法を試してみる。
- ② 原因について考え直す。
- ③ 複数の方法を組み合わせてみる。
- ④ 様子を見ながら、支援を継続する。
- ⑤ 背景に目を向け、改善を図る。

原因や背景の見極めが、難しい場合もあります。市町村教育委員会等が相談窓口の設置や専門家チーム等の派遣をおこなっているところもありますので、積極的に活用しましょう。

子どもの成長を待たなければ、すぐには成果が上がらない場合もあります。悪化することがなければ、継続してみるのもよいでしょう。



### まとめ

暴力が伴う場合には、周囲の子どもたちの安全の確保、原因の見極め、複数の教員・保育士による協力した対応が大切です。

対応としては、まず落ち着かせること。コミュニケーションの未熟さから、暴力を振るっている場合もありますので、適切な方法を教えること。そして、普段から、パニックを防ぐ環境を用意したり、パニックを防ぐ方法をその子どもに教えたりすることも必要です。

保護者の理解・協力を得る努力も欠かせません。園と家庭での、その子どもにとってよい生活のリズムが、問題の行動を減らすことにつながります。

## Q14

大きな音がすると耳をふさいでびっくりし、突然、部屋から出ていってしまうのは？

困っている子どもを理解しよう

赤ちゃんの泣き声が苦手、周りの子どものわめき声が苦手、運動会のピストルや花火のような突然の大きな音が怖い……。

子どもの  
気持ちに共感



**障害の特性からその背景を考え、適切な支援をするために仮説を立てよう。**

子どもは、予想していなかったときに、突然聞こえてくる「大きな物音」に対して、過敏なタイプ（聴覚過敏）なのでは？

### 「環境整備」として

- 部屋の中の整理整頓をしましょう。突然、何かが床に落ちて、大きな音がすることがないように、配慮しましょう。
- 落ち着いた環境づくりを心がけましょう。周りの子どもたちの大声や奇声、怒鳴り声は、その子どもにとっては負担です。
- 突然の物音にパニックになったとき、その子どもが落ち着ける場所を確保しておきましょう。



### 「個別の支援」として

- 日常の観察や、保護者・子どもとの聞き取りから、その子どもにとって苦手な音を把握しておきましょう。
- 見通しを持たせる（構造化）ことで、安心感を与えましょう。
  - ・今日はどのような活動をするのか。
  - ・活動の中で、どのような物音がするのか。
  - ・苦手な音はしないか。
  - ・どうしても苦手な音がしたときは、どうしたらよいか。

### 保護者と一緒に

- 家庭での様子を含めて、保護者と情報交換をしましょう。
- 周囲の賑やかな話し声なども、その子どもにとっては負担であることをお互いに理解しながら、今後の支援策を一緒に考えましょう。

## Q15

### 手を、しょっちゅう洗っているのは？

#### 困っている子どもを理解しよう

- ・手がベタベタすることを嫌う。
- ・さわったり、さわられたりすることに過敏な反応を示す。

#### 子どもの 気持ちに共感

### 障害の特性からその背景を考え、適切な支援をするために仮説を立てよう。

- 感覚が過敏で、皮膚に感じる感覚に独特な感覚が生じるためではないか。
- 触覚刺激を敏感に受け取りすぎて、さわることや、さわられることに過剰に反応してしまうのではないか。

#### 「環境整備」として

- 生活の中での感覚過敏からくるストレスに対応する。
- 苦手な刺激が予想される場合は事前に知らせておく。
- 日常生活の中で強いストレスを感じるようであれば、その刺激を減らす。
- 友だちにその子どもの過敏さが理解できるように伝えておく。

#### 「個別の支援」として

- 遊びのなかに「感覚遊び」を取り入れて、刺激を正しく受け止める感覚を育てる体験をする。
- 自分の体の部位の感覚を高める遊び（手遊びリズム遊び ボディタッチ等）をする。
- 感覚遊び（小麦粉粘土 ボディペインティング）を取り入れる。
- 触って物を選別するような遊び（あてっこ遊びなど）をする。



#### 保護者と一緒に

- 感覚遊びは、無理強いせず、ちょっと頑張ればできることを取り入れ、楽しく活動させることが大切です。
- 自分からやってみようという気持ちを引き出しながら取り組みましょう。



1 行動・現象から気づく

気になるなあ！！

Q 16

3日以上、同じ状態が続いているよ

集会等、大勢の中に入ると、そわそわして動いたりしゃべったりし、時には大騒ぎをするのは？

2 仮説を立てる

困っているんじゃないかな？

子どもの  
気持ちに共感

原因はこれかな？（背景を推測する）

- ・みんなが何をしているかわからない（意味理解）から不安だ。
- ・みんなが集まって何をするのかわからない（見通し）から不安だ。
- ・体育館は、いつもと違う場所だからこわいよ。
- ・ザワザワとした音に耐えられないよ。
- ・長い時間じっとしているのがつらいよ。

- ※ 集団は関係性が複雑で、刺激も強く、わかりにくいのもかもしれません。
- ※ 無理に参加させようとして、パニック（大騒ぎ）を起こしたのかもしれません。



<なぜそのようになるのでしょうか>

- 複雑で分かりにくく、見通しが持てないので、強い不安を感じる。  
行動パターンが決まっていれば安定し過ごせる子どもも、何をやればいいのか、どのようなことが起こるか予測ができないことには、強い不安を感じる。
- 音やにおいに敏感に反応してしまう。  
特有の感覚過敏があるため、その子どもにしかわからない不快で耐えられない音やにおいがある。
- 集中力が続かない。  
他のことに関心が移ってしまい、同じ場所に長くいることが苦手。



### 3 手だてを考える

こんなことができそうだな！！

手だては、1つじゃないよ！！

#### <参加の仕方を工夫する>

- 時間を区切って参加する。「長い針が、電車のマークの所に来るまで参加しよう」等と約束して、部分参加をする。
- 内容を区切って参加する。「〇〇の活動は一緒にやろう」と約束して部分参加する。
- 他のことをしていても、同じ場所で過ごす。空間を共有する。
- 会場の後ろとか、集団から離れた場所で参加する。
- 耳栓やヘッドホーンをして参加する。



#### <見通しを持てるように事前に準備する>

- 本番の雰囲気や事前にビデオ等で知らせておく。
- 事前に、集会やイベントのプログラムを紙芝居や絵カードを使って、子どもにわかるように説明しておく。当日もスケジュール表等を持たせる。(スケジュールの視覚化)
- 友だちとかかわる場面がある場合は、誰と、どのようにかかわらせるか計画しておく。

### 4 振り返り・評価をする

★ 家族もよろこんでいるよ。

支援は、有効だったかな？

笑顔がたくさん、見られるようになったかな

記録を読み返し、振り返りをしよう。

発表会のリハーサルを保護者に公開し、練習でうまくできているところを見てもらい、よろこんでもらいました。本番は緊張が強く、参加できませんでしたが、リハーサルでお母さんにほめてもらったので満足そうでした。

集会や人が多く集まる行事等への参加は、いやな記憶として残らないよう、保護者の理解と協力を得て参加させることが大切だと思いました。



仮説の修正

### まとめ

集団は、関係性が複雑で、刺激が強く、どのように行動すればよいかわかりにくいので、発達障害の可能性のある子どもにとっては、負担が大きいです。そこで、子どもが楽しむことを大事にしながら、**無理なく参加できる方法**を先生方で話し合ってみつけていくことが大切です。

「嫌がっているので参加しなくてよい」「勝手なことをしていてもよい」と誤学習を積み重ねてしまうと、小学校へ入ってから、みんなと同じ行動ができなくて困ったり、やるべき課題をやらないで過ごしてしまったりすることになります。

「集団参加」は、生涯にわたって不可欠です。早期から丁寧な支援をし、参加の仕方を身に付けさせたいものです。